22. さらスポーツクラブ

活動分野	健康・スポーツ	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神・発達	年齢	全年齢
活動地域	香川県高松市 鶴尾地区拠点	実施主体 【任意団体】	名　称：総合型地域スポーツクラブ さらスポーツクラブ 住　所：香川県高松市田村町 1114 番地 かがわ総合リハビリテーション福祉センター内 電　話：087-813-5016　　fax：087-898-4491		

活動概要

「さら」とは讃岐弁で「新しい」という意味である。

地域の身体障害や知的障害などのある人とその家族や友人らが集まり、障害の有無に関わらず、子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの人まで、地域の全ての人が一緒に、年齢、興味・関心、技術・技能レベルに応じて、いつでも気軽に活動でき交流できる場として、新しい総合型地域スポーツクラブを運営している。

近年、社会問題となっている子どもの体力の低下、青少年の問題行動、地域活力の弱まりによる人間関係の希薄化などを解消し、また、身近なところから障害のある人の社会参加と様々な障害への理解を促し、そして、高齢者の体力健康づくりを行うために、様々なスポーツ教室やイベントを行っている。

＜主な活動内容＞

〇定期教室

・ふうせんバレーボールボール教室

毎月第一日曜に開催。障害の有無に関わらず、誰もが参加でき、一緒に汗をかきながら楽しんでいる。

・手話教室

コミュニケーション手段の一つとして挨拶や簡単な読み取り、しりとりをメインに月2回実施している。片手でもできるので、誰でも参加できる。

〇イベント

・高松まつり

クラブのメンバーやボランティアら総勢 100 人で毎年お盆に行われる高松まつり総踊りに参加し、子どもから高齢者まで（障害の有無に関わらず）みんなで楽しみながら、地域の人達とのつながりを深めている。

・発見体験ウォーキング

400 年の歴史のある地元丸亀町商店街などでのウォークラリー。普段何気なく歩いている街の中にある不思議なものや珍しいものを目印にしている。

・イルカと遊ぼう

海でイルカと間近に触れ餌をあげたり、化石クリーニングをしたりするイベントを毎年夏に開催している。障害の有無に関わらず誰でも参加できる。

その他にも様々な教室やイベントを開催している。

活動を始めた背景・経緯

2006年の夏に香川県内にある障害者スポーツ団体が集まり情報交換した際に、車椅子バスケットボールの選手である現クラブ会長が、障害という壁（バリア）をなくし、誰もが共に楽しめるスポーツクラブが必要ではないかと総合型地域スポーツクラブに関心を持ち、設立準備が進められることになった。

当初は各障害者スポーツ団体との折り合いがつかず困難な状況であったが、話し合いを重ねる中で様々な分野の賛同者が増え、2009年4月に設立に至った。

活動目的

障害の有無や年齢、性別に関わらず、全ての人が生涯に渡り、気軽にスポーツ、文化活動に携われる場を提供し、世代や障害の枠を越えた交流を通じて、つながりを持ちお互いの可能性を広げていくことを目指している。

活動の成果又は効果

クラブには様々な障害のある人がおり、また、年齢も色々であるが、教室やイベントを開催するに当たっては、そうしたメンバーや運営スタッフ、ボランティアらみんなで、道具の工夫やルールの変更などについて意見を出し合いながら協力し合うことで、全ての人が安心して参加しやすい環境を作ることができるようになるとともに、障害のある人とない人のお互いの理解が深まっている。

また、教室・イベントの内容によるが、障害のある人とない人の参加比率はだいたい半々ぐらいとなっており、お互いに交流を深めやすい環境を作りながら活動の輪を広げている。

活動を継続する上で工夫した点

・様々な障害を理解するために運営スタッフやボランティアが講習会へ参加したり、勉強会を実施している。
・広報誌「さら新聞」を発行し、クラブの活動について広く告知している。
・障害のある人の中には、スポーツをすることに様々な不安を抱えていて、スポーツをしたくても今までなかなか踏み出せなかったという人も多い。
教室やイベントの企画・運営に当たっては、運営スタッフやボランティアらで話し合いを重ね意見を出し合って、障害のある人のそうした不安を取り除き、安心して参加し、障害のない人と一緒に楽しめるようルールや用具などを工夫するようにしている。
・イベントの実施に当たっては、地域のできるだけ多くの人に参加してもらうために、県内の福祉施設や学校などにも呼びかけて開催している。
・各イベント会場では、参加者にアンケートを配布し、問題点などを指摘してもらうことによって、スタッフの意識や技術の向上に役立てている。
・障害のある人に対しては、「してあげる」のではなく、彼らのできることを一緒に考えて見つけていくようにしている。それが本当の意味での交流（つながり）になると考えている。

活動を継続する上での課題

・類似の活動をしている既存団体が少ないため、障害者スポーツの指導経験があるスタッフの確保が難しい。そのため、現在は、様々な講習会に参加したり、勉強会を実施して、障害特性や安全管理などについて学習しながらスタッフの能力向上を図っている。
・各種スポーツ教室やイベントについては、障害の種別を問わない形で参加者を募っているが、様々な障害に対応できなくてはならないので、運営スタッフの負担も大きくなっている。
・活動資金については、クラブ会員の会費や補助金等が主であるが、参加費に関しては、障害のある人は無料とするのが当然と考える人たちもいて、活動の趣旨を理解してもらうのに苦労することがある。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

障害の有無や年齢、性別に関わらず、地域の全ての人が一緒に、興味・技術・技能レベルに応じて、いつでも気軽にスポーツや文化活動ができ、地域住民の交流の場（つながり）となるような、様々なイベントや教室を開催していきたいと考えている。

2010年2月末に「エコツアー」を実施予定。

実施体制

役員12名　理事27名

会員72名（2009年10月現在）

年会費：大人3000円　子供（15歳以下）1000円

　　同居家族二人目からは500円引

香川県教育委員会、香川県体育協会、香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、高松市スポーツ振興課、高松市体育協会、高松市スポーツ振興財団、かがわ総合リハビリテーションセンターと連携・協力

キーワード

こころのバリアフリー、つながり、出会い

23. こんぴらフットサルクラブ

活動分野	健康・スポーツ	活動に参加している障害者			
		障害種別	知的・精神・発達	年齢	18～64 歳
活動地域	香川県 仲多度郡琴平町	実施主体 【社会福祉協議会】	名　称：こんぴらフットサルクラブ（琴平町社会福祉協議会事務局） 住　所：香川県仲多度郡琴平町榎井 891－1 電　話：0877-75-1371　　fax：0877-75-1481 URL　：http://compirafutsal.jugem.jp/		

活動概要

年齢や性別、障害の有無にかかわらず、同じコートで一緒に楽しめるようルールを工夫した「インクルージョンフットサル」のクラブ。

活動は、毎週木曜日の7時から、小学校の体育館で練習している。毎回の参加者数は15～20名ほどで、下は幼稚園の子供から上は50代の人が来て、障害のある人もない人も一緒に汗を流している。

また、これまでに5回、こんぴらインクルージョンフットサル大会を開催。平成20年3月に開催した第5回大会には、県内から6チームが参加した。

活動を始めた背景・経緯

琴平町社会福祉協議会では、商工会と連携して地域通貨を普及させる取組みを行ってきたが、地域通貨を流通させるためのイベントとして、地元の金刀比羅宮では年中行事として蹴鞠（けまり）が行われているということもあり、障害のある人たちとのフットサル大会を開こうという話になった。

町内の小規模作業所に協力をしてもらい、町内の障害のある人や社会福祉関係者、医療専門学校生、琴平旅館組合の人らに呼びかけてクラブを設立した。

活動目的

障害のある人とない人が一つのコートに立ち、一緒にフットサルをすることによりお互いの交流を図り、また、地域との交流を図ることを目的とする。

活動の成果又は効果

年齢や障害の有無にかかわらず誰でも参加できるので、特に小さい子どもにとって、障害のある人たちと一緒にフットサルを行うことによって、自然とこれが普通なんだというふうに受け入れ、偏見を持たなくなる効果が出ている。

また、大人たちも、障害のある人を理解し、思いやりができている。障害のある人自身にとっても、スポーツをする機会、自己表現の場となっている。

活動を継続する上で工夫した点

障害のない人から1回の参加料100円を支払ってもらっている。子ども、障害を持っている人は無料。

ルールは一般のフットサルと違い、ゴールは、子ども2点、女性7点、障害者は10点などとし、一般男性はシュートできないようにしている。そうすることにより、パス回しが増え、参加者は、試合中に必ず最低一回はボールに触れることができるようになる。

活動を継続する上での課題

参加者数が減ってきたので、障害の有無や年齢、男女を問わずメンバーを増やしたい。

また、以前使用していた体育館は、床が傷むことを理由に断られ、現在は小学校の体育館を使っているが、会場が狭いので練習用の小さなゴールしか使えない。大会ができる場の確保が課題である。

実施体制

専任のスタッフはおらず、琴平町社会福祉協議会、小規模作業所ねむ工房の3、4人が兼務で運営に当たっている。

こんぴらライオンズクラブが大会等のスポンサーとして協力してくれた。

キーワード

フットサル、インクルージョン、障害者理解

24. 高知チャレンジドクラブ 夏祭り 2009（障害者スポーツフェスティバル）

活動分野	健康・スポーツ	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神	年齢	全年齢
活動地域	高知県	実施主体 【任意団体】	名　称：高知チャレンジドクラブ 住　所：高知県高知市春野町内ノ谷1－1 （県立障害者スポーツセンター内） 電　話：088-841-0021　　fax：088-841-0065 URL　：http://www.kochi-scfd.com/challenged/index.html		

活動概要

高知チャレンジドクラブは、障害のある人もない人も、子どもからお年寄りまで全ての人々が、スポーツや文化活動を通して仲間づくりや社会参加、情報交換等を行い、心が温かくなるような居場所づくりができ、また、自分の可能性に挑戦することの楽しさを実感できるような、『総合型地域スポーツクラブ』を目指している。

そのクラブ事業の一環としてスポーツ交流イベント『夏祭り 2009（障害者スポーツフェスティバル）』を開催した。

会場では、障害のある人とない人が一緒に行うことができるスカッシュバレー交流大会や障害の有無に関わらず気軽に参加できる車椅子テニス教室、フライングディスク体験教室等多くの種目が実施され、子どもから高齢者まで、また、障害の有無に関わらず多くの人たちが祭りを楽しみ、地域コミュニティの交流の活性化につながった。

活動を始めた背景・経緯

最近では、障害のある人たちを街でよく見かけるようになり、バリアフリーの街づくりとともに、障害のある人への理解も深まりつつある。しかしまだ、障害のある人とない人が一緒にふれあう機会が少ないといった現状もある。そこで、障害のある人たちが自分たちの暮らし慣れた地域で、スポーツや文化活動が気軽にできるような環境づくりを推進していくためにクラブ設立に至った。

そして、クラブ事業の一環として、夏祭りを開催した。

活動目的

【高知チャレンジドクラブ　3つの理念】

①障害／生涯スポーツを地域で
②障害のある人とない人の交流活動
③感情豊かな心を育む

以上の理念を達成するために、夏祭りを開催する序ことにより、障害のない人の障害者スポーツへの理解を深めるとともに、障害のある人たちと地域住民との交流の促進を目指す。

活動の成果又は効果

2006 年から 2009 年まで過去4回開催し、少しずつではあるがお祭りが地域に定着し始め、地域住民の方々に、障害者スポーツの楽しさや、障害者スポーツセンターの存在を知ってもらうきっかけとなっている。

活動を継続する上で工夫した点

毎年、障害者スポーツ体験コーナーの種目を変え、誰もが参加しやすい種目にし、ニーズに合った種目を提供している。また、各障害者団体に会場への出店依頼を行い、クラブのネットワークを広げ、活動の輪を広げている。

活動を継続する上での課題

この事業の財源の半分は、高知県よさこいピック基金補助金である。今後、補助金が無くなった場合の財源確保が大きな課題である。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

高知県は東西に長く、障害のある人にとって、交通アクセスの問題が大きくのしかかってくる。そこで、高知チャレンジドクラブと同じ目的を持ったクラブが東部、西部にも設立できればと考えている。それにより、東部、西部のクラブでも、チャレンジドクラブ同様の事業展開を行い、高知県全域の障害／生涯スポーツを盛り上げていければと考えている。

実施体制

会長1名、副会長1名、事務局員2名、運営委員 15 名
協力団体：障害者スポーツセンター、障害者スポーツ指導者協議会、市町村社会福祉協議会ほか

キーワード

地域、交流活動、豊かな心を育む

25. 地域交流レクリエーション（風船バレーボール）大会

活動分野	健康・スポーツ	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神	年齢	18 歳以上
活動地域	福岡県田川市及び田川郡７町村	実施主体【任意団体】	名　称：人に優しい町・田川をつくる会事務局 住　所：福岡県田川市伊田松原通り 3292－2 田川保健福祉事務所健康増進課精神保健係気付 電　話：0947-42-9307　　fax：0947-44-6112		

活動概要

毎年秋に地域交流レクリエーション大会として、田川保健所管内8市町村にある精神科病院や障害者施福祉施設を利用している身体障害、知的障害又は精神障害のある人たちがチームとして参加し、また、地域の人たちが大会運営のボランティアとして参加する風船バレーボール大会を開催している。

2009 年で6回目を迎え、毎年参加している人に加え、新たに参加する人やチームも増え、毎年新しい交流が広がっている。

大会は、午前中は総当たり方式のリーグ戦、午後はトーナメント方式の決勝戦となっており、各チームとも大会へ向けて重ねてきた練習の成果を出し切り、熱戦が繰り広げられ、選手、応援に関係なく会場全体が盛り上がる。

大会を通じて、障害のある人が一緒にスポーツを楽しむことにより、障害の種別を越えた交流が広がり、また、大会運営のボランティアとして参加している地域の人たちの障害への理解も深まっている。

大会を主催する「人に優しい町・田川をつくる会」は、田川保健所管内の田川市及び田川郡7町村、精神科病院、障害者福祉施設などにより構成され、1992 年に発足した。

活動を始めた背景・経緯

人に優しい町・田川をつくる会は、障害があっても住み慣れた地域で安心して暮らせるようになることを目指し発足したが、その活動の一環として、障害のある人と地域住民との相互交流を促進し、障害に対する理解啓発を図るために、種別に関わらず障害のある人と地域住民ボランティアが参加する地域交流レクリエーション大会を 2004 年より開催している。

活動目的

身体、知的、精神の障害の種別による垣根を越えて、田川市及び田川郡7町村における障害のある人同士又は地域の人達との交流を図る。

活動の成果又は効果

・各チームとも楽しんで参加しており、毎年、参加人数・チーム数が増加している。
　2010 年　選手 294 人（19 チーム）、ボランティア 23 人参加
・大会を通じて障害のある人と交流することにより、大会ボランティアとして参加した地域の人々に、田川地区に住む障害のある人への理解が深まった。
・田川地区の身体障害、知的障害又は精神障害のある人が一緒に参加してスポーツを楽しむことにより、障害の種別にとらわれない交流の場となっている。また、大会へ向けて各チームとも一生懸命に練習を重ね、障害のある人の積極的な活動につながっている。

活動を継続する上で工夫した点

大会の企画・運営に当たっては、地域での幅広い支援体制を築くため、精神科病院、市町村、社会福祉協議会、障害者福祉施設等の担当者で定期的な話し合いの場を持っている。

また、大会当日にボランティアの協力を得るため、ボランティア募集に努力している。

活動を継続する上での課題

大会の円滑な運営のためには、ボランティアの協力が欠かせないので、その確保が課題となっている。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

障害のある人について正しく理解し、共に生きていくための啓発を目的とした当事者の体験発表等。

実施体制

主催：人に優しい町・田川をつくる会
大会スタッフ 43 人

キーワード

風船バレー、広域交流、自立

26. ゲートボール地域交流大会

活動分野	健康・スポーツ	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神	年齢	全年齢
活動地域	大分県国東市	実施主体【社会福祉法人】	名　称：社会福祉法人 共生荘 障がい者サポートセンター 三角ベース 住　所：大分県国東市安岐町下山口 63 番地2 電　話：0978-64-7533　　fax：0978-67-3002 URL　：http://www.oct-net.ne.jp/~sankaku/		

活動概要

地域活動支援センター事業の講座でゲートボール教室を月2回（第2、4土曜日）開催している。

この拡大版で、地域の高齢者チームと地元の子ども会や学校の児童クラブ等にも呼びかけ、交流大会を毎年度末3月に開催している。

当日、当施設利用する障害のある人とそれぞれのチームの人との混成チームを作り、トーナメントで試合を行う。勝ち負けではなく、当日知り合った人同士で助け合い、いかに良いチームワークを作れるか。また、その経過（ふれあい）で障害のある人とない人がお互いに理解を深めることが大会の趣旨である。

試合後、バーベキューで疲れを癒し、食でも交流を図っている。

活動を始めた背景・経緯

三角ベースは、精神障害者地域支援センターとして平成15年4月に開所した。

障害の中でも精神障害のある人への理解は不足している状況がある。直接触れ合うことが一番理解を進めると考え、スポーツを通した啓発の機会を設けた。

その後、平成18年10月1日より障害者サポートセンターとなり、現在では、身体障害のある人や知的障害のある人も受け入れており、大会には障害の種別に関わらず、みんなで参加している。

活動目的

ゲートボールの交流試合を通し、障害のある人とない人が直接触れ合い、お互い同じ人間だということを確認しあうことにより、障害のある人への偏見や差別の除去を目指す。

活動の成果又は効果

地域の精神障害を始めとする障害のある人に対する理解が進むとともに、当施設の存在が地域に認識されるようになった。

活動を継続する上で工夫した点

ゲートボール講師を通じ、地域チームの参加を要請している。
当法人理事より、地元子ども会への参加要請をしてもらい、参加者を募っている。

活動を継続する上での課題

回を重ねる毎、参加人数が増え、施設職員だけでは大会運営が無理になってきているので、協力者が必要となってきている。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

訓練事業で自然農法（不耕起、草生栽培、無農薬）による農園作業がある。その作業に地元の人が一緒に参加し、農園作業を通じ、自然や障害のある人とふれあい、また、参加者自身の精神保健の増進にも貢献できればと考えている。

実施体制

就労支援事業職員：7.5 人
相談支援事業職員：2.5 人

キーワード

地域交流、ふれあい